

緑友会報

緑友会報

発行日：2022(令和4)年6月1日

第40号

発行：大阪府立東住吉高等学校緑友会

発行人：坂田 繁数 12期生

題字：醬野 博行 15期生

主な内容

- | | |
|----------------------|-----------------|
| 1 - 緑友会 タブレットを寄贈 | 8 - 特別会費・寄付・決算書 |
| 2 - 文化祭・ヒガスミニユース | 9 - 同窓会開催をサポート |
| 3 - 芸文 TOPICS・共生推進教室 | 10 - 進路状況 |
| 4 - 北から南から | 11 - 恩師・現役の先生より |
| 5 - 卒業生だより | 12 - 総会案内 |
| 6・7 - 卒業アルバムから見る体育祭 | |

永らく使用してきました題字は次号から変更の予定です。
題字制作いただいた醬野博行氏(15期生)には感謝申し上げます。

この青色は新卒業生 65 期生と新入生 68 期生の学年カラーに因んだものです。

緑友会 タブレットを寄贈

緑友会は、GIGA スクール構想(文部科学省が進めている1人1台の端末と高速通信環境の整備をベースとするICT環境整備事業)に準拠するタブレット端末4台(391,380円)の寄贈を行いました。

1人1台端末(タブレット)の活用について

東住吉高等学校 校長 萩原 美由紀

東住吉高校第20代校長の萩原です。この度は、緑友会の皆さまには多大なるご支援をいただき、厚くお礼申し上げます。令和3年度、府教育委員会から全生徒用端末(タブレット)が配付されましたが、教職員端末につきましては、23台のみの配付でしたので、緑友会に寄贈いただきました端末4台とあらゆる予算から少しずつ捻出した端末を合わせて、何とか全教職員に端末を配布することができました。お蔭様で全校が臨時休業になった際にも、全授業を時間割どおりオンラインで行うことができいております。つきましては、紙面をお借りしましてこの間の活用状況について簡単にご説明させていただきます。

私が教職を志した頃は、教育におけるICTの活用など想像したこともありませんでした。しかし、今の生徒たちが社会で活躍する頃には、Society5.0とも呼ばれる新たな時代が到来します。実際にキャッシュレス決済の普及や自動運転技術の実用化の進展など、様々な変化が起こっています。また、このコロナ禍において、テレワークやオンライン会議の急速な普及、オンライン授業の実施など、オンライン化の進展が働き方やライフスタイルに大きな影響を与えてきました。

このように予測不能な社会の中で、これまで教職員が積み重ねてきた教育実践と1人1台端末環境がうまく掛け合わさることで、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善が進み、学習活動をより一層充実することが本事業の目的です。

タブレットの活用状況ですが、「ステップ1」は、「すぐにも、どの教科でも、誰でも活かせる1人1台端末」として、使うことへのハードルが比較的低い内容になります。例として、検索サイトを活用した調べ学習が挙げられます。また、課題の配付・提出が簡単に行えたり、一斉学習の場面で資料やデジタルコンテンツを提示したりすることもできます。本校では、進路資料の配付、各教科の課題配付・回収、健康観

察カードの配付・回収などが日常的に行われています。加えて、コロナ禍で登校できない生徒には、教室の授業をライブ配信しております。



「ステップ2」は、「教科の学びを深める。教科の学びの本質に迫る。」ということで、各教科の特質に応じた活用になります。例えば、本校では、理科の実験や英語のスピーキング、体育の実技や家庭科の実習などを動画として撮影することで、繰り返し何回でも見ることができます。特に英語では、自分のスピーキング課題を吹き込み、振り返りを行うことにより、生徒の「学びに向かう人間性」の育成に大いに役立っています。

「ステップ3」は、「教科の学びをつなぐ。社会課題等の解決や一人一人の夢の実現に活かす。」というステップです。本校では、SDGsの視点から生徒に自らの興味・関心に応じた課題を設定させ、情報の収集、整理・分析、まとめ・表現を行わせるといった探究活動を実施しています。グループでタブレットを使って議論し、同時進行でプレゼンテーション資料を作成する。年度末には、クラスの代表を選出し、学年全体でプレゼンテーション大会を実施しています。

このように自らが考える課題に対して、解決していこうという活動を通じて、生涯学び続ける力の育成を我々はめざしています。

タブレット授業の様子

